

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和6年(2024年)10月18日

枚方市立津田南小学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童(生徒)の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の学力調査結果の概要をお知らせします。

<学力調査結果の概要>

○国語について

昨年度の本校結果と比べると、若干下回っています。概ね、全国平均の点は取れていますが、領域別にみると、「読むこと」の中でも、「記述式」で解答を求められた問題に課題が見られています。文の中で既習の漢字を正しく使う力は、身についてきている児童が多く、漢字を使ってひらがなを書き直す問題では、正答率が高い結果となりました。

○算数【数学】について

昨年度の本校結果と比べると、若干下回っています。特に「変化と関係」「データの活用」の領域では大きな課題が見られました。図形の領域では、正答率が府と全国を上回る問題もありましたが、公式の未定着や、公式が分かっても仕組みが分からなければ解答できない問題では、平均を下回る結果となりました。

国語科

【成果が見られた設問】

ア きょうぎの作戦を考えたりします。

上級生が速くからボールを イ 上げる

問題の概要

高山さんの文章の下線部を、学年別漢字配当表に示されている漢字を使って正しく書き直すことができるかどうかをみる。

考察

全国より高い正答率となっています。

この問題は、文章を読み返し、ひらがなになっている下線部分を文章の前後内容に合わせて既習漢字に書き直すことができるかどうかを見る問題です。漢字ドリルノートを活用しながら单元ごとの小テストで習得状況を確認したり、漢字大テストの告知をすることで新出漢字の復習を促したりする取り組みが、今回の結果に結びつきました。正答率に比べて、無回答率が少し高くなっていますが、覚えていれば、確実に点を取ることができる問題です。文章内容を読み返す中で、下線部に適した漢字を思い出せなかったとしても、日頃より解答用紙に何らかの答えを記入しなければならないという意識を持たせる必要があると考えます。

三 高山さんは、「高山さんの文章」を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた漢字に書き直すことができました。次の「ア」の漢字で正しいひらがなを書き直しました。

「ア」の漢字

算数科

【成果が見られた設問】

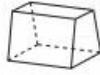
問題の概要

五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く。

(4) ことねさんたちは、角柱の面の数について考えています。



三角柱



四角柱



五角柱



三角柱の面は5つです。三角柱には、底面が2つ、側面が3つあるからです。



四角柱の面は6つです。



五角柱の面はいくつかな。

五角柱の面はいくつですか。答えを書きましょう。

また、そのわけを、底面と側面がそれぞれいくつあるのかわかるようにして、言葉と数を使って書きましょう。

そのとき、「底面」、「側面」の2つの言葉を使いましょう。

考察

全国より高い正答率となっています。指定された言葉を使って書く問題で、この問題は、角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

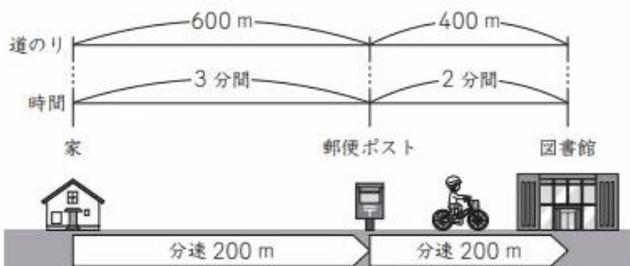
五角柱の面を7と書き、次の①②の全てを書いていることが正答の条件です。①底面が二つあることを表す言葉と数②側面が五つあることを表す言葉と数角柱の形や底面と側面の言葉の意味を理解することが必要です。引き続き、自分の考えを書く取り組みを続けていきます。

【課題が見られた設問】

問題の概要

家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を^{ウツリ}って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。

答えを書きましょう。

考察

この問題は、速さの意味について理解しているかどうかをみる問題です。速さは、時間と道のりという2つの数量を組み合わせる単位量当たりの大きさで表すという意味を理解することが必要になります。誤解答が多かったのは、家から郵便ポストまでの速さと、郵便ポストから図書館までの速さを足して分速400mと解答していました。「単位量当たりの大きさ」は、苦手とする児童が多い単元でもありません。しかし、何が問われているかが分かれば解くことができる問題も多いです。全体での指導や協働的な学習の中で、問題を読み解く力をつけていきます。

今後も基礎基本の定着を図るために、つながりを意識した指導をしていきます。

質問紙調査の結果

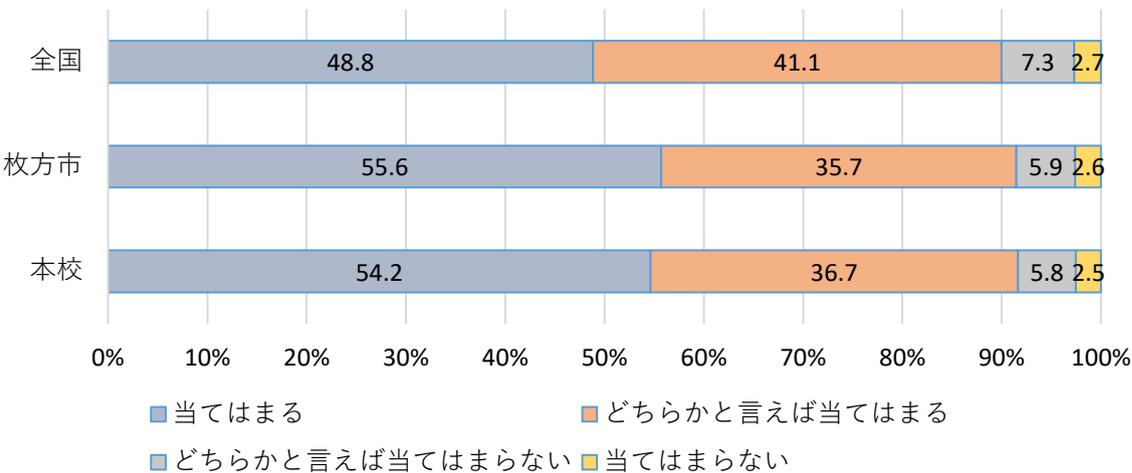
質問紙調査結果の中から、成果が見られた項目と課題の見られる項目をお知らせします。

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



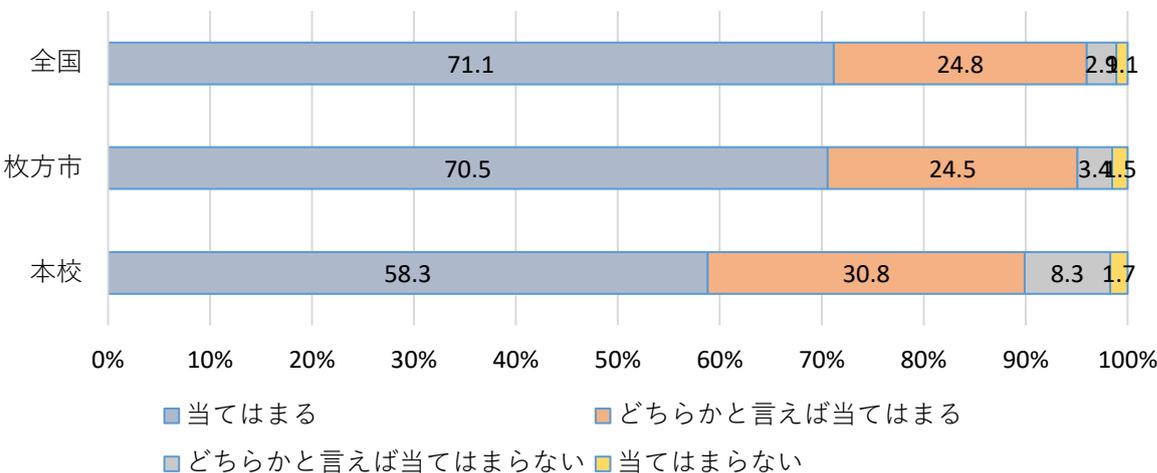
(考察)

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」の質問項目における肯定的な回答の割合は、全国の児童の割合と比べると、高い結果となりました。令和元年度より、引き続き、全国の結果を上回っています。

本校では、令和5年度より、子どもたちの「自分と向き合う力」、「自分を高める力」、「他者とつながる力」などの非認知能力（目に見えない学力）を高める取り組みを行っており、少しずつその成果が表れていると考えられます。また、日々の学校生活において、教師自身も子どもたちと共に学び共に成長していくことで、児童との信頼関係を構築し、よりよい学校づくりを目指していきます。

【課題が見られた項目】

人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



(考察)

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問項目における肯定的な回答の割合は、全国、枚方市の児童の割合と比べると、両方を下回る結果となりました。

この結果から、子どもたちの社会経験の少なさと、他者理解の低さが予想されます。家庭や地域生活における、やりがいや社会貢献について知ることで、また、誰かのために自分の力を発揮する中で得られる「喜び」を感じる経験を増やすことで、より多くの人や社会のために、自分の長所を活かし、役立たせていける児童の育成を目指します。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

- ・小中学校9年間を視野に、子どもたちの「自分と向き合う力」や「自分を高める力」、「他者とつながる力」などの非認知能力（目に見えない学力）を高める取り組みを引き続き行います。
- ・昨年度に引き続き、校内研究の取り組みである「基礎基本の定着を図り、自分の考えを表現する子を目指した授業」の実施を目指します。
- ・子どもたちが一人で課題に向き合う個別最適な学びの時間の確保や、共に学びあい協力して課題に向き合う協働的な学びの時間の確保を自ら選択することができるような場面の設定を、算数科や学級活動等の各教科、領域において行っていきます。
- ・算数では、意味理解を深め、知識の定着をはかるために、「なぜ？(理由)・どうやって？(方法)・どうしてそうなる？(事実)」といった、学びを深め考える機会を取り入れた授業づくりに努めます。
- ・国語では、文章を読み取り、条件に応じて自分の考えを書く力をつけるために、「事実と意見や感想・理由・方法」などの視点を明確にして、文を書く練習を積極的に取り入れた授業を目指します。

(2) 家庭学習について

- ・家庭と連携した「シームレスな学び(途切れない、なめらかな学び)」を進めていきます。

家庭では、nabima(ナビマ)などの学習支援アプリを活用した個別学習で、知識・技能の定着を目指します。特に授業で習った際には出来ていた四則計算等の基礎基本の力を、高めるために反復して練習を行います。

また、授業での学びを持ち帰り、家庭でじっくりと考える時間をもつことで、次回の授業に向けて準備ができるよう、タブレット端末を活用したオンライン上での事前提出の機能などを積極的に利用していきます。授業が家庭学習へ、家庭学習が授業へとつながる、学びを目指します。

- ・家庭学習の時間を確保し、自ら学びに向かう習慣の定着を目指していきます。

「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか。」という質問項目に対する回答では、「30分から1時間」と回答した児童の割合(26.7%)が最も多く、「1時間未満」と回答した児童の割合の合計は、56.7%となりました。

小学生の家庭学習時間の目安は、「学年×15分」と言われています。このことから、本校の半数以上の児童の家庭学習時間は、目安よりも短いことが分かります。

本校では、家庭学習推進の取り組みの一つとして、「自主学習ノート」の校内掲示を行っています。学級においても、紹介発表の機会を作るなど、さらなる推進を図ることで、子どもの興味関心のある事柄について、主体的に学びを進める力を伸ばし、家庭において学習に向かう習慣の定着を目指していきます。